

東海大学観光学部による丹沢湘南地域における 広域観光連携の取組

——丹沢湘南観光連携会議と丹沢湘南観光交流フォーラム——

屋代雅充*

【概要】神奈川県内の観光の中心は箱根、横浜、江ノ島・鎌倉の各地域であり、湘南地域や丹沢地域はそれらに次ぐ観光地として認識されてきた。東海大学では観光学部設置準の段階(2007年度)から、湘南キャンパスの立地する平塚市を中心に大学周辺の市町にも呼びかけ、これまで希薄であった湘南地域と丹沢地域との観光連携を強化し、新たな観光魅力を創出することを目的として、「丹沢湘南観光連携会議」を毎月開催し、公開の議論の場として「丹沢湘南観光交流フォーラム」を年1回開催してきた。これらの取組について報告する。

目的

丹沢湘南地域は首都圏に近い利便性をもっているが、かえってそのために、これまで観光地としての独自性を発揮しにくい地域でもあった。もちろん、平塚の「七夕」、秦野の「たばこ祭」、伊勢原の「道灌祭」をはじめ、知名度の高い行事があり、海と山に広がる有望な観光資源ももっているが、年間を通して安定的に観光客を誘致するには至っていない。また、海と山が一体となす地域として考えられることもなかった。

丹沢湘南地域の今後の発展を期すためには、このような現状から脱却し、観光の活性化を図ることが必要であると考えられる。そのためには、丹沢山系南麓の地域と湘南海岸に立地する地域とが手を携え、南北の交通利便性を改善しつつ、特色ある観光資源を相互に活用できる体制を作る必要がある。それが、「丹沢湘南」という新しい地域観に基づく協力体制である(図1)。

このような行政区分を超えた広域的な視野で、地域内の交流を深め、また他地域との交流をこれまで以上に活発に推進することによって、「住んでよし、訪れてよし」という環境を作り上げていくことが、今まさに望まれていると考えられる。

こうした問題意識のもと、東海大学では大学が位置する丹沢湘南地域の新しい姿を、地域の方々とともに創り上げたいと考えている。それは一朝一夕にできることではないが、長期的な視点をもって、産官学が連携した広域的な取組を続けることで実現できると考えている(注1)。

そのための具体的な検討の場として「丹沢湘南観光連携会議」を2008年度に発足し、概ね毎月1回の会議を継続的に開催するとともに、そこでの取組を一般の方々に紹介したり有識者を

* 東海大学観光学部観光学科 投稿日2014年9月30日 受理日2014年12月10日



図1 神奈川県における丹沢地域・湘南地域と東海大学湘南キャンパスの位置
(ベースマップには Google Earth を使用)

招いての講演会やパネルディスカッションをしたりするための場として毎年1回「丹沢湘南観光交流フォーラム」を2007年度から開催している。

1. 丹沢湘南地域における広域観光連携の取組

(1) 丹沢湘南観光連携会議

2010年4月に東海大学観光学部が開設された。これに先立つ2008年度から東海大学では観光学部設置準備の一環として、湘南キャンパスの立地する平塚市を中心に大学周辺の秦野市や伊勢原市や神奈川県湘南地域県政総合センターにも呼びかけ、丹沢湘南地域の観光活性化と地域振興に向けた長期的な取組を開始した。これを契機としてこれまで希薄であった湘南地域と丹沢地域との観光連携を強化し、新たな観光魅力を創出することを目的として、「丹沢湘南観光連携会議」を毎月開催するようになった。その後、2009年度から大磯町が加わり、市町の界を超えた広域観光バスツアーを企画し、モニターツアーなどの実践を重ねてきた。

東海大学観光学部が設置された2010年4月には、二宮町も加わり、随時、旅行・宿泊関連業界の方々にも参加していただき、産官学連携による新たな広域観光ルートの商品化を目指してきた。さらに2012年3月からは中井町も加わり、広域観光連携をいっそう進めるべく新たなテーマを開拓している(図2)。

こうした取組の中で、NPO 法人湘南ウェディングサポートも会議メンバーに加わり、広域

表1 丹沢湘南観光連携会議メンバー一覧（2014年9月現在）

メンバーの組織・部署	備考
東海大学 観光学部 観光学科	大学・幹事
神奈川県 湘南地域県政総合センター 企画調整部 商工観光課	行政
平塚市 経済部 商業観光課 観光担当	行政
一般社団法人 平塚市観光協会	観光協会
一般社団法人 秦野市観光協会	観光協会
伊勢原市 教育委員会 教育部 文化財課	教育委員会
一般社団法人 伊勢原市観光協会	観光協会
大磯町 産業環境部 産業観光課 観光推進係	行政
二宮町 都市経済部 産業振興課 商工観光班	行政
中井町 地域支援課 協働推進班	行政
NPO 法人 湘南ウエディングサポート	民間団体
(株) セブンカルチャーネットワーク	セブン&アイグループ・第一種旅行業



図2 丹沢湘南観光連携会議メンバーの属する市町と東海大学湘南キャンパスの位置
(ベースマップには Google Earth を使用)

観光連携を婚活ツアー（「ロコ婚活ツアー」と称す）にも活かすような取組も進めている。

現時点での丹沢湘南観光連携会議のメンバーは表1のとおりであり、会議の開催場所として東海大学湘南キャンパス内の観光学部実習準備室を活用している。

会議メンバーの大部分は、各市町やその管内の観光協会の職員であるが、基本的に広域観光連携に積極的に取り組もうという意識の高いメンバーが会議のコアを形成している。

（２）丹沢湘南観光交流フォーラム

「丹沢湘南観光交流フォーラム」（以降、適宜“フォーラム”と略す）は、観光学部の設置に先駆けて2007年度にスタートし、毎年１回実施している公開シンポジウム形式の観光交流集会である。東海大学周辺に位置する丹沢湘南地域の市町村における観光交流や魅力ある地域づくりについて考えるため、有識者を招いて有用な話題やヒントを提供していただくとともに、パネルディスカッションおよび質疑応答と意見交換の場を設け、観光やまちづくり関係者の交流の場として開催している。主な聴衆としては、地域の暮らしやまちづくり、観光振興、景観形成、文化事業、商業振興、農業振興、地場産業振興等に関心を持っている関係者、専門家、市民、学生を想定している。

フォーラムの企画運営に際しては、「丹沢湘南観光連携会議」メンバーのニーズを踏まえつつ、各メンバーにはフォーラム開催に関してのPR活動、パネリストとしての登壇等にも協力をいただいている。

これまでのテーマは、第１回（2007年度）『広域型シティプロモーションをめざして』、第２回（2008年度）『風景を育むまちづくり』、第３回（2009年度）『住み心地良さと観光魅力の両立』、第４回（2011年度）『観光雑誌編集者が注目する観光魅力と地域のもてなし力』、第５回（2012年度）『地域連携による観光魅力の創造と実践－各地域の方々の役割を考える』、第６回（2013年度）『地域連携による大山道の観光魅力の創造－まち歩き企画の実践成果－』である。（なお、2010年度は東日本大震災の影響で中止となった）

各回の開催概要と開催趣旨を表２に示す。

第１回目から第３回目までのフォーラムは、観光学部設置に際して多大なご協力をいただいた（株）ANA総研との共催で開催した。また、フォーラムの会場は、第１回目と第２回目は湘南キャンパス内の大きめの教室を利用し、第３回目から第５回目までをより収容人数の多い湘南キャンパス内にある松前記念館に移した。さらに各回での参加者へのアンケート結果に基づき、フォーラムの案内リーフレット配布によるPR効果があまり期待できないこと^{（注２）}や、湘南キャンパスが最寄り駅の小田急線東海大学前駅から遠い^{（注３）}ために参加者が少なくなりがち（概ね70～80名程度）であることが分かった。そこで、第６回目は東海大学前駅から徒歩２分の所にできた「タウンニュースホール」を借り上げて開催した。この結果、参加者は約150名と倍増し、満席になる状況となりフォーラムとしての会場の雰囲気盛り上げる上でも会場の変更は有効であった^{（注４）}。

第３回目以降のフォーラムでは、丹沢湘南観光連携会議の中でテーマを設定し、それに相応しい有識者を招いて基調講演をお願いし、パネルディスカッションや質疑応答の場として会場の参加者との意見交換も行うようにしてきた。

２．大山道をテーマとした広域観光連携の取組

（１）大山道（おおやまみち）^{（注５）}と大山詣（おおやまもうで）

大山道とは、江戸時代に丹沢山系の大山を参詣するために人が歩いた道のうち、代表的なもので、沿道の人々や通行人から「大山道」と呼ばれたものを指す。このため大山道と呼ばれて

いなくとも「大山道」の表記のある石の道標が据えられている道もある。

大山阿夫利神社の先導師第三十七代を務めている佐藤大住(2008)は「江戸時代の庶民にとっての大山参りは信仰の対象として、また一種の娯楽的な要素も含んで盛んに行われていた。その大きなピークは宝暦年間(1751～1763)にあり、年間数十万人の参詣者があったとさえ言われている。」と述べている(注6)。

このように大山道は江戸の庶民にとって貴重な観光旅行の機会であった「大山詣」のための参詣ルートであり、現在の大山阿夫利神社(当時の大山寺(注7))に向かう多数のルートが知られている。その代表格が都内の青山通りから伸びる国道246号であるが、大山への登山道有する伊勢原市や秦野市とともにその周辺に位置する平塚市、二宮町、中井町などにも大山道がある。こうした大山道をたどって各地から多数の人々が大山を目指す大山詣は日本における観光の原点とも言える。

表2 丹沢湘南観光交流フォーラムの開催概要と開催趣旨(1/2)

開催概要				開催趣旨(開催告知リーフレットより抜粋)
第1回	2008.1.26	(土)	1300～16:30 湘南 11号館401教室	丹沢湘南フォーラムの第1回として、今後どのような地域作りや町づくりをめざすべきかを考える「きっかけ」をつくりたいと思います。初回ですから、ANA総合研究所の実績報告とそれに基づき丹沢湘南地域に対する提言を基調講演とし、その後シンポジウム形式で、私たちが創り出すべき、新しい地域像を考えます。第2回以降は、この結果を踏まえ、参加者のディスカッションを通して地域のあり方を考える、問題発見解決型・全員参加型のフォーラムを運営し、これに併せて参加者の皆さんのご要望に沿いながら、適宜、講演会や講座を開催する予定です。
テーマ	【広域型シティプロモーションをめざして】			
基調講演	浜田健一郎 (ANA総合研究所社長)			
シンポジウム	「観光と地域振興」			
パネリスト	「広域型シティプロモーションをめざして」			
	重田雅史(国土交通省総合政策局観光地域振興課長)			
	古賀学(社団法人 日本観光協会 総合研究所長)			
	紫藤邦子(鶴巻温泉 陣屋 女将)			
コーディネーター	河合孝仁(東海大学文学部広報メディア学科)			
第2回	2009.3.18	(水)	13:30～16:00	丹沢湘南観光交流フォーラムの第2回は「風景」に着目した『まちづくり』を考えてみることにしました。美しい風景は、住み心地良さを生み出すとともに、住民にとっての誇りと愛着の源泉ともなります。そのような住民から愛される風景は、そこを訪れる人々にとっても魅力的であり、域外から多くの人を引きつける働きがあります。さらに美しい風景づくりに地域の方々がこぞって関心を持つことは、より快適で暮らしやすい、そして活き活きとしたまちづくりへのきっかけとなります。今回のフォーラムでは、このような観点から「風景を育むまちづくり」をテーマに、話題提供と意見交換の場を設けることとしました。 なお、東海大学は、平成22年4月に「観光学部観光学科」を新設する運びとなりました。今後は観光学部の教員・学生を交えて、このフォーラムをさらに盛り上げていきたいと考えております。
テーマ	【風景を育むまちづくり】			
基調講演	屋代雅充 (東海大学非常勤講師・ラック計画研究所 元代表取締役)			
	「風景って何だろう-風景からのまちづくりへ」			
事例紹介講演	若林紀夫(小田原市まちづくり景観課 主幹・景観担当主査)			
	「小田原市の景観まちづくり」			
事例紹介講演	古屋一恵(都市部参事 兼 都市づくり課長)			
	「秦野市の景観まちづくり」			
コーディネーター	屋代雅充 (東海大学非常勤講師・ラック計画研究所 元代表取締役)			
第3回	2010.3.30	(火)	14:20～17:25 湘南 松前記念館	本年4月、東海大学に観光学部が設置されます。学部設置の先駆けとしてこのフォーラムは、東海大学と㈱ANA総合研究所とが共催し、2007年度にスタートしました。大学周辺に位置する丹沢湘南地域の市町村における観光交流や魅力ある地域づくりについて考えるため、有識者を招いて有用な話題やヒントを提供していただき、意見交換の場を設けて参りました。 今回は「住み心地良さと観光魅力の両立」をテーマとし、これを実現させている長野県小布施町での実践的な取組について、その推進役を果たしている市村次夫氏からお話を伺うこととしました。 市村氏は、小布施名物ともなっている栗菓子店および日本酒の醸造場の経営者であると同時に、文化事業を重視した魅力あるまちづくりの実践家でもあります。生活・就業という基本的な条件に加え、さらに観光的な魅力を引き出している持続可能なまちづくりにこそ、学ぶべき点が数多くあると思われます。
テーマ	【住み心地良さと観光魅力の両立】			
小布施の概況	屋代雅充(東海大学観光学部観光学科 教授)			
基調講演	市村次夫(㈱小布施堂・(株)樹一市村酒造場 代表取締役)			
	「まちの魅力の創造と持続—なぜ小布施は魅力的であり続けるのか」			
質疑応答 コーディネーター	屋代雅充(東海大学観光学部観光学科 教授)			

表2 (続) 丹沢湘南観光交流フォーラムの開催概要と開催趣旨 (2/2)

開催概要				開催趣旨(開催告知リーフレットより抜粋)
第4回 中止	2011.3.30 テーマ 基調講演 問題提起講演 質疑応答・意見交換	(水) 14:30～17:00 【外国人観光客の受け入れと地域振興の課題】 加藤英一(東海大学観光学部観光学科 教授) 「国の観光政策と丹沢湘南地域での外国人観光客受け入れについて」 太田孝(東海大学観光学部観光学科 教授) 「観光による地域振興の現状と課題についてー成功・失敗事例から“地域振興”を考えるー」	湘南 松前記念館	今回は、本学観光学部所属実務経験も豊かな加藤教授と太田教授の講演にもとづいて、丹沢湘南地域での外国人観光客の受け入れと地域振興の課題について考えを深めたいと考えます。多くの方々のご参加をお待ちします。 (東日本大震災の影響で中止)
第4回	2011.10.23 テーマ 基調講演 参考講演 参考講演 コーディネーター	(日) 14:30～17:20 【雑誌編集者が注目する観光魅力と地域のもてなし力】 野木原晃一(ECサイト「旅の発見」プロモーション企画部長・都市情報誌「横浜ウォーカー」元編集長) 「観光雑誌編集者が注目する観光魅力とその発信」 館野和子(東海大学観光学部観光学科 教授) 「来訪者を迎えるおもてなしの技」 屋代雅充(東海大学観光学部観光学科 教授) 「もてなしの景観デザイン」 太田孝(東海大学観光学部観光学科 教授)	湘南 松前記念館	今回は「観光雑誌編集者が注目する観光魅力と地域のもてなし力」をテーマとし、これを実現させていくための実践的な取組について、質疑応答と意見交換の場を設けます。 基調講演には都市情報誌「横浜ウォーカー」等の編集長をさせて頂いた野木原晃一氏をお招きし、観光雑誌編集者の視点からどのような観光魅力が注目しに値しそれをもとに発信してゆくのが効果的なのかについて、お話を伺うこととしました。 また地域の「もてなし力」について併せて考えるため、本学観光学部の館野教授より「来訪者を迎えるおもてなしの技」、星代教授より「もてなしの景観デザイン」と題して、参考講演を用いました。 これらの講演を手掛かりにして、ご来場の皆様との活発な質疑応答や意見交換ができればと思います。
第5回	2012.12.8 テーマ 基調講演 パネルディスカッション・質疑応答 パネリスト コーディネーター	(土) 14:00～17:15 【地域連携による観光魅力の創造と実践ー各地域の方々の役割を考えるー】 宮本倫明(町興しプロデューサー) 「草莽崛起ー草の根からの観光振興・地域振興へ」 「地域連携による観光魅力の創造と実践ー各地域の方々の役割を考えるー」 鍛冶栄一(神奈川県商工労働局産業部観光課長) 中戸川正明(平塚市経済部商業観光課観光担当) 勅使川原千春(一般社団法人秦野市観光協会事務局長) 市川清美(伊勢原市観光協会) 大槻直行(大磯町産業観光課観光推進係主幹兼産業推進係長) 宮本倫明(町興しプロデューサー) 太田孝(東海大学観光学部観光学科 教授)	湘南 松前記念館	今回は「地域連携による観光魅力の創造と実践ー各地域の方々の役割を考える」をテーマとし、これを実現させていくための実践的な取組について、パネルディスカッションおよび質疑応答と意見交換の場を設けます。 基調講演には町興しプロデューサーとして各地で活躍され注目を集めている宮本倫明氏をお招きし、地域連携の視点から各地域の方々からどのように観光振興や地域振興に取組んで行くのがよいのかについて、実践例を踏まえたお話を伺うこととしました。 パネルディスカッションでは、神奈川県および東海大学湘南キャンパス近隣に位置する平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町で観光振興を実践されている部署や観光協会の方々にパネリストとしてご参加いただきます。議論に際しては、本学部の太田孝教授がコーディネーター役を務め、さらに基調講演者の宮本倫明氏にも加わっていただき、市民がどう地元の観光振興や地域づくりに貢献できるかについて、ご来場の皆様とともに議論を深めていきたいと考えます。
第6回	2014.1.25 テーマ 基調講演 パネルディスカッション・質疑応答 パネリスト コーディネーター	(土) 14:00～17:15 【地域連携による大山道の観光魅力の創造ーまち歩き企画の実践成果ー】 安藤洋一(伊勢原市教育委員会 文化財課専門員) 「大山道を歩くーその歴史と観光魅力」 「地域連携による大山道の観光魅力の創造ーまち歩き企画の実践成果ー」 樋渡三千尋(神奈川県湘南地域政策総合センター) 船橋陽介(株式会社セブンカルチャーネットワーク) 勅使川原千春(一般社団法人秦野市観光協会) 市川清美(一般社団法人伊勢原市観光協会) 安藤洋一(伊勢原市教育委員会・基調講演者) 太田孝(東海大学観光学部観光学科 教授)	タウンニュースホール	今回は「大山道(おおやまみち)、その魅力の再発見ーまち歩き企画の実践を通して」をテーマとし、今年度試みてきた大山道を活かした実践的な取組を振り返りながら、大山道をどのように活かすべきかについて、パネルディスカッションおよび質疑応答と意見交換の場を設けます。 基調講演には伊勢原市教育委員会の文化財課で長年にわたって文化財の調査を手がけてこれ、大山道案内の実践家としても活躍されている安藤洋一氏をお招きし、実践例を踏まえたお話を伺うこととしました。 大山道は江戸の庶民にとって貴重な観光旅行の機会であった「大山詣」のための参詣ルートであり、現在の大山阿夫利神社(当時の大山寺*)1)に向かう多数のルートが知られています。その代表格が都内の青山通りから伸びる国道246号ですが、大山への登山道を有する伊勢原市や秦野市とともにその周辺に位置する平塚市、二宮町、中井町などにも大山道があります。 これらの大山道を観光振興に活かすべく、丹沢湘南観光連携会議*2)では、(株)セブンカルチャーネットワーク*3と連携して10月から12月にかけて6回にわたる日帰りのまち歩き企画商品を販売し、実施してきました。 パネルディスカッションでは、こうした実践結果を報告していただくとともに、神奈川県および東海大学湘南キャンパス近隣に位置する自治体や観光協会で観光振興に携わっている方々にパネリストとしてご登壇いただきます。議論に際しては本学部の太田孝教授がコーディネーター役を務め、さらに基調講演者の安藤洋一氏にも加わっていただき、大山道をどのように観光振興や地域づくりに活かしていくべきかについて、ご来場の皆様とともに議論を深めていきたいと考えます。

*1) 江戸末期まで神仏習合。
*2) 東海大学観光学部が幹事となって運営しており、丹沢湘南地域に属する自治体が広域連携することによってより魅力的な観光の振興を図ることを目的に、実践的な試みを重ねている。参加自治体および観光協会は、平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町、中井町、神奈川県湘南地域政策総合センター(2013年12月現在)。
*3) セブン&アイグループの中で旅行企画や実施を扱っている会社で、今回は関東南東部のセブンイレブンの店舗を活用して観光企画商品のパンフレットを配布し、各店舗にある端末からも予約できる仕組みを用意した。

（２）有識者との連携

丹沢湘南観光連携会議では数年前から「大山道」についての話題が会議の席でしばしば出るようになっていた。さらに会議メンバーが大山道の表示されている地図類^(注8)を持ち寄り、大山道を共通項として丹沢と湘南の両地域をつなぐ新たな広域観光連携を検討してみようという動きにつながった。これを契機として大山道について造詣が深く、ガイドツアーでの案内役としての経験も有する安藤洋一氏（伊勢原市教育委員会文化財課専門員）に会議メンバーとして参画していただくようにした。安藤氏が手掛けた大山道に関する著作として、文献^{(3)~(5)}などが挙げられ、いずれもかつての大山道の痕跡を留める石造の道標などの現地確認に基づいて精査した貴重な資料である。

（３）大山道を活かした広域観光ツアーの企画と販売および実施

丹沢湘南観光連携会議では、各市町からの情報に基づいて大山道をテーマとしたまち歩きルートの選定およびガイドの確保、さらに当該地域ならではの昼食の提供等について検討した。そうした各地域の状況を踏まえ、全体を5地域に分けて第1回「二宮・中井」編、第2回「秦野」編、第3回「平塚」編、第4回「伊勢原」編、第5回「大山参拝」編とし、それぞれの日帰りまち歩きガイドツアーを用意した。この5地域でのガイドツアーを異なる日に実施することで、丹沢湘南地域を大山道というテーマで統一し、繰り返し参加してもらうことで多様な大山道の体験ができるようなツアー企画を立案した。

このツアー企画を実際の旅行商品として販売し実施していくために、丹沢湘南観光連携会議のメンバーでもあるセブン&アイグループに属する（株）セブンカルチャーネットワークに関わってもらい、詳細な旅行企画・実施を担っていただいた。このツアーは、「日帰り まち歩き企画 歩いて・見て・食べて ぶらり大山なつかし道」と題し、ツアーPR用のリーフレット（図3）9万部を用意して東京都内（多摩北部を除く）および神奈川県東部にあるセブンイレブンの約3,000店舗に配布した。さらにツアー実施地域内に関しては丹沢湘南観光連携会議メンバーが手分けして関係者にリーフレットの配布を依頼するようにした。このほかにインターネットや電話でも参加申込みを受け付けるようにした。

リーフレットには、「江戸時代に庶民のさきがけとなった大山詣。いにしえより残る大山へ続く道、神社、街、そして食を再発見してみませんか?」、「平塚市、秦野市、伊勢原市、二宮町、中井町に広がる大山へつながる道を中心に、江戸時代の人々の旅に思いを馳せ、歴史の名残を再発見。江戸時代の旅人も食したかも知れない地元の味覚を楽しみ、ナビゲーターとともに学んで体験しませんか。」と誘客の文が書かれている。さらにリーフレットには、協力者として丹沢湘南観光連携会議（平塚市・平塚市観光協会・秦野市・秦野市観光協会・伊勢原市・伊勢原市観光協会・大磯町・二宮町・中井町・神奈川県湘南地域県政総合センター・東海大学観光学部）が明記されている。

5回に分けて5地域で実施したまち歩きガイドツアーの概要を表3にまとめた。当初各地域で2回ずつ実施する方向で募集を進めたが、第4回目を除いていずれの回も片方の募集日で募集定員に満たないということになり、それらのツアーは中止することとなった。



図3 大山道を活かした旅行商品の企画

セブンイレブンの店舗網を利用した観光ツアー商品のリーフレット配布には、期待したほどの誘客効果が伴ってこないことが今回の試みを通じて明らかとなった。ただし、各店舗に配布したリーフレットが無くなっていることは確かなので、それを見て新たな観光の選択肢が提供されたことは間違いない。今回の試みが、今後の丹沢湘南地域への誘客のための布石の一つとなっていることを期待したい。

3. 今後の課題

以上のように丹沢湘南観光連携会議で企画立案した大山道をテーマとした広域観光連携のための旅行商品は、参加者を集めるのに苦戦した面がある。しかし一方でツアーに参加した方々からの評価は良好であった。このことは大山道というテーマ自体が必ずしも万人に知れ渡っている訳では無く、どちらかと言えば大多数の人々がまだ認知していない状況にある可能性が高い。つまり大山道という言葉に敏感に反応できる知的好奇心の旺盛な方々でないと、このようなテーマのガイドツアーに是非とも参加したいという欲求が現れにくいものと思われる。

そこで必要となるのは、広域観光連携によってこうしたメジャーでない観光資源のPRの仕方をいかに工夫していくかと同時に、その多様な楽しみ方をいかに提供できるかの企画力である。

丹沢湘南観光連携会議では、そうした視点から外国人観光客も視野に入れながら、広域観光連携によって丹沢湘南地域の魅力を増進していく方法を、今後とも実践的に探っていくこととしたい。

表3 「日帰り まち歩き企画 歩いて・見て・食べて ぶらり大山なつかし道」のツアー概要

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
地域	二宮・中井	秦野	平塚	伊勢原	大山参拝(伊勢原)
開催日	10/2(水) 10/5(土)→中止	10/16(水)→台風中止 10/19(土)	10/30(水) 11/3(日・祝)→中止	11/12(火) 12/16(土)	12/3(火) 12/7(土)→中止
参加費(円) 大人1名	3,500	3,500	3,500	3,500	4,000
歩行強度	初級・約9km	初級・約4km	初級・約9km	初級・約5km	中級・上り坂・約3km
見どころ ポイント	●かつて二宮～秦野を走り、大山詣での参拝客も利用していた「軽便鉄道」の廃線跡をたどる。 ●昔そのままの切り通しの道など、のどかな背景を眺めながら、大山道の名残を見つける。 ●懐かしい時間を思い起こさせる旧家の広間で弁当の昼食を楽しむ。	●都心から1時間圏内とは思えない、昔ながらの田園に点在する道祖神を目印に大山道をたどる。 ●大山詣の道中で立ち寄ったであろう「大日堂」の茶湯殿では、迫力ある「十王像」を見て、法蓮寺住職の講話を聞く。 ●かつて盛んだったばこ栽培の農家の広間で地元食材を使った弁当の昼食を楽しむ。	●伊豆や房総方面からの大山詣では海路が利用され、江戸幕府公認の七之浦のひとつである須賀湊に上陸していた。かつて栄えた港界隈を歩く。 ●大山への道中、安全祈願をしていた三嶋神社や平塚八幡宮、宿場町跡、そして平塚の地名の由来となったと言われる地などを案内。 ●港町ならではの新鮮な海の幸をつかった昼食を用意。	●天保5年築といわれる「山口家住宅」や、鳥居や宿坊も残る大山のふもとを歩く。 ●道中、名物の大山的豆腐やきやらぶき屋、まんじゅう屋に立ち寄る楽しみもある。大山まんじゅうで有名な「良弁」ではひとつずつのおやつ付き。 ●昼食は宿坊旅館「いわゑ」で大山豆腐をつかった料理を賞味。	●賑わいのある「こま参道」をゆっくり進み、七不思議のある女坂を登って大山寺へ。不動明王は一見の価値あり。 ●大山をあしらった昼食を楽しむ。 ●阿夫利神社下社では正式参拝のあと、「大山詣り」という古典落語を面白おかしく楽しむ。
行程	JR二宮駅南口10:00集合 …中央通り商店街…軽便鉄道旧二宮駅…元町庚申塔…吾妻山公園…ふるさとの家(昼食)…一本松峠庚申塔…厳島湿生公園…北窪入口バス停(路線バス)=二宮駅15:30頃解散	小田急秦野駅改札前10:00集合= (路線バス)= 藤棚バス停(大山道や養毛道をたどり道標や鳥居、馬頭観音など見学)…緑水庵(移築した旧農家でお弁当の昼食)…御師の村(2軒が当時の面影を残します)…大日堂(見学と講話)…あしびき稲荷…養毛バス停(路線バス)=秦野駅北口15:30頃解散	JR平塚駅南口10:00集合…平塚海岸…平塚漁港(須賀湊)…長谷金本店…糟屋道(旧大山道)…長楽寺…三嶋神社…魚八(昼食)…旧東海道平塚宿…春日神社…要法寺…平塚八幡宮…平塚駅北口15:30頃解散	小田急伊勢原駅10:00集合= (路線バス)= 五霊神社…国有形登録文化財「山口家住宅」…二の鳥居(石鳥居)…三の鳥居…大山宿坊旅館「いわゑ」(昼食)…新道の道標…阿夫利神社社務局…大山総合食品(豆腐屋)…米屋(きやらぶき屋)…遠州屋酒店…良弁(大山まんじゅうをご賞味)…とうふ坂…大山ケーブルバス停15:00頃解散	小田急伊勢原駅10:00集合= (路線バス)= 大山ケーブルバス停…こま参道…茶湯寺…女坂…大山寺(参拝…不動明王を見学)…大山寺駅(ケーブル)…阿夫利神社下社駅…阿夫利神社(参集殿でお弁当の昼食。正式参拝と落語をお楽しみいただきます)…阿夫利神社下社駅…大山ケーブルバス停15:00頃解散
ガイド	「グリーンにのみやプロジェクト」松本岩太郎氏ほか	「まほろ秦野みちしるべの会」田村 尚武氏、武勝美氏ほか	午前の部…須賀町会の皆様、午後の部…「平塚市民観光サポーター」鈴木昇氏	「伊勢原市教育委員会」安藤 洋一氏	「伊勢原市教育委員会」安藤 洋一氏
昼食	昼食付き	昼食付き	昼食付き	昼食付き	昼食付き
参加者	13名	13名	10名	14名・12名	11名
催行結果	◆「吾妻山公園」や「厳島湿生公園」といった地元外には知られていない名所をご紹介できた。 ◆旧家を移築した「ふるさとの家」でいただいたお弁当の昼食が特に女性に好評だった。	◆多く現存する道標や庚申塔を確認しながら、道中では初冠雪した富士山も望めた。 ◆かつて盛んであったばこ栽培農家を移築した「緑水庵」では、地元食材を使った弁当の昼食と、食後の武講師による大山道と富士道のつながりについての講義が好評。 ◆「大日堂茶湯殿」では通常公開していない「十王像」特別拝観とご住職の講話をいただいた。	◆須賀地区では 地元有志の案内とおもてなしを頂き、かつて賑わった町を散策していただいた。途中、海岸を歩いたり、しらす加工や削り節の店舗での試食などでも楽しんでいただけた。 ◆参拝客が立ち寄ったであろう、市内に点在する寺社や宿場町跡などを巡りながら、「七夕」だけではない異なる平塚の観光魅力を伝えることができた。	◆大山のふもとにある豪農の家や鳥居、史跡をたどりながら、道中にある大山名物の「豆腐」「きやらぶき」「おまんじゅう」「地酒」なども楽しんでいただけた。 ◆昼食は宿坊旅館にて大山豆腐をふんだんに使ったお料理をお楽しみいただけた。	◆下社での正式参拝、豆腐ときのこをつかった大山カレーをご賞味いただいた。 ◆昼食の後は、古典落語「大山詣り」ほかを、金原亭馬治さんによる軽快な語り口で約45分お楽しみいただけた。

補注

- (注1) 2008年1月に開催された第1回丹沢湘南観光交流フォーラムでの配付資料「東海大学“丹沢湘南観光交流フォーラム”の開催について」に示された趣旨と目的を参照。
- (注2) 参加者に対してフォーラム開催を何によって知ったかについてアンケートを実施しているが、大部分は地元の各戸に配布される「タウンニュース」の案内記事やポスターあるいは役所のホームページおよび広報誌が情報源となっていることが判明した。これを踏まえて、当初県内の主な自治体の関係部署宛に印刷配布していたリーフレットを、近隣のみで配布するようにした。
- (注3) キャンパス内も広いいため最寄り駅から会場まで徒歩で約15～20分かかる。
- (注4) 学内の会場を利用すれば費用がかからないが、民間の施設を借用することになるため会場借用費および設備使用料等を確保しておく必要が生じた。
- (注5) 安藤洋一(2013a)『相模大山道を歩く1 田村通り大山道 第1回 藤沢本町～香川駅』, p.1
- (注6) 佐藤大住(2008推定)『大山信仰と信仰を支えた先導師』, p.18
- (注7) 江戸時代までは神仏習合であった。
- (注8) 参考文献・引用文献 1), 3)～12) 参照。

参考文献・引用文献

- 1) 大山道・江の島道ネットワーク推進委員会(2002)『山道・江の島道観光ガイドマップ』
- 2) 佐藤大住(2008推定)『大山信仰と信仰を支えた先導師』〔私家版冊子, 2013年入手〕
- 3) 再発見大山道調査団編集(2012)『再発見大山道調査報告書 伊勢原市内の大山道と道標(第二版)』伊勢原市教育委員会
- 4) 安藤洋一(2013a)『相模大山道を歩く1 田村通り大山道 第1回 藤沢本町～香川駅』伊勢原市教育委員会教育部文化財課(共催)〔平成24年度伊勢原市観光協会事業〕
- 5) 安藤洋一(2013b)『相模大山道を歩く1 田村通り大山道 第4回 三の鳥居～阿夫利神社下社』伊勢原市観光協会・伊勢原市教育委員会教育部文化財課(主催)〔平成24年度伊勢原市観光・文化財連携事業〕
- 6) まほら秦野みちしるべの会／武勝英監修(2009)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ①東地区《寺山・蓑毛》編, ②東地区《東田原・西田原》編, ③東地区《落合・名古屋》編
- 7) まほら秦野みちしるべの会／小野脩佑・石井角蔵監修(2008)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ④西地区《千村・曲松・渋沢・栃窪》編
- 8) まほら秦野みちしるべの会／米山正監修(2009)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ⑤西地区《堀四ヶ村》編
- 9) まほら秦野みちしるべの会／星野隆夫・横溝達雄・三竹正義・高橋登監修(2010)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ⑥大根・鶴巻地区《北矢名・南矢名》編
- 10) まほら秦野みちしるべの会／高橋登監修(2010)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ⑦大根・鶴巻地区《鶴巻(落幡村)》編
- 11) まほら秦野みちしるべの会(2011)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ⑧本町地区《曾屋村》編
- 12) まほら秦野みちしるべの会／内藤美彦監修(2011)『まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー』(地図) ⑨南地区編